

## 心と心のつながり ～『心と心のあく手』～（第4学年）

### 1 主題について[B 親切, 思いやり]

本主題における思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを向けることである。そのためには、相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。相手の立場を考えたり気持ちを想像したりしながら、単に手を差し伸べるだけではなく、時には温かく見守ることも親切な行為であり、そうした思いやりや親切な行為の意義を実感できるようにしていくことが重要である。

中学年の段階においては、学校生活を中心として友達どうしの交流が活発になるとともに、活動範囲も広がってくる。その中で、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになる一方、他の人々の感じ方や考え方が自分と同様であると思いがちになることもこの時期の特徴と言われている。指導に当たっては、相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるようにしていくことが大切である。

### 2 教材について

(1) 教材名 『心と心のあく手』(学研：みんなの道徳 4年)

(2) あらすじ

主人公「ぼく」は、下校途中、荷物を持ったおばあさんに出会う。「荷物、持ちます」と声をかけるが、断られて残念に思った。その後、母親の話から、おばあさんは少し前まで病気だったことや、病気が治り歩く練習をしていて、少し歩けるようになってきたことを知る。数日後、同じおばあさんに会った「ぼく」は、どうしようか考え、今度は声をかけずに見守り後ろをついて行く。家に着き、振り返ったおばあさんの笑顔を見て「ぼく」の心はぱっと明るくなり「心と心のあく手」をしたような気がした。

### 3 目指す子供の姿

#### 【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

相手のことを考えて、励ましや援助をすることが大切であるという理解を基に、親切にする理由を考えて伝え、友達の考えに耳を傾けながら親切な行為についての自分の考えを深めることを通して、相手のことを自分のこととして想像し、親切な行為を自ら進んで行おうとしている。

子供たちは、これまでに人に親切にしたりされたりした経験があり、相手のために励ましや援助をすることの大切さを理解してきた。しかし、親切をどのように理解しているかを調べてみると、ほとんどの子供たちが考えていた親切は、一方的に誰かのために何かをしてあげるといった考えのものであり、本時のねらいの根底にある「時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為である」という道徳的価値の理解に達している子供は少なかった。

本教材では、親切にしようとした主人公と自分を重ね、自分だったらどのような行動を取るか、また、そうする理由を考えて伝え合うようにした。子供たちは、「自分だったら家までついて行く。途中でつまづいて転んだら大変だし、交通事故に遭ったら嫌だから」や、「手伝ってよいかどうか分からないから、おばあさんに声をかけて聞いてみる」などと伝え合った。こうした交流を通して、おばあさんのために手伝わずに見守るといった親切の形に気付いた子供たちは、親切についての理解を深め、相手のことを考えた親切な行為を行いたいという思いをノートに書くことができた。

#### 4 子供の実態（本時に入るまで）

メタ認知に関する実態調査によると、前時の学習を振り返り、学習の計画を立てるなど、メタ認知を働かせられていると考えられる子供が34名中11名いた。また、クラスの約半数の子供たちは、教材文と同じ状況で、自分はおばあさんを助けることができると考えていたが、そのうち数名は、相手のために行動することの難しさを実感できていないようであった。

親切についての質問紙調査を行ったところ、親切とは困っている人を助けることといった一方向の行為だと考えている子供がほとんどで、相手の気持ちを考えて行うと回答した子供は34名中5名であった。また、親切にしたりされたりした経験について尋ねたところ、その経験がないと答えた子供が5名いた。これらの子供は、実際には親切な行為をしたりされたりした経験があるが、それを想起することができていないと考えられた。

#### 5 主張点

##### （1）教材分析と主発問

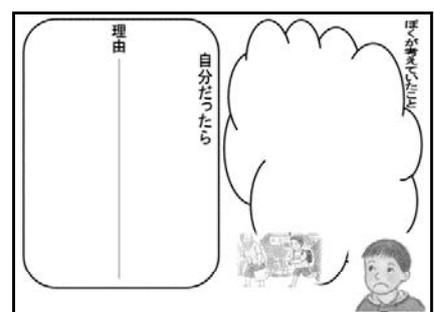
主人公の「ぼく」の心情に道徳的変化をもたらしたのは、母親の話である。その話を聞いた主人公は、おばあさんにとって親切なことは何かと考えはじめ、手助けをすることが必ずしも相手のためにならないのではと考えが変容していき、振り向いたおばあさんの笑顔を見たときにその考えが確信に変わる。したがって、まず、母親の話聞いた後の場面で、「ぼくは、おばあさんについてどんなことを考え続けていたのでしょうか」と発問し、悩む主人公の気持ちを考えさせた。どうすればよかったのかと悩む主人公の気持ちを取り上げ、主発問として『自分だったらどうしますか』と問いかけ、次におばあさんに会ったときにどうするかとその理由を考えられるようにした。

##### （2）導入での働きかけ（課題解決以前）

事前に、「親切とはどういうことか」について自分の考えを書かせ、学習前の自分もっている親切についての考えを明らかにした。子供たちは、自分のこれまでの経験とつなぎながら、親切についての考えをノートに記述して表出した。そして、教材文を読み、登場人物の親切と子供たちがもっている親切についての考えを比較することで、親切についての考えを深めていけるようにした。【今の自分】

##### （3）展開での働きかけ（課題解決中）

右のようなカードを用いて、ずっとおばあさんのことを考えていた主人公の気持ちと、自分だったらどうするかを考えた。その際には、子供から出された「家までついて行く」「おばあさんに聞く」「見送る」「声をかける」という四つの行為を黒板上に示し、全ての子供が選択できるようにした。そして、選択したものを挙手させることで、多様な考えがあることを視覚的に捉えられるようにし、対話への意欲を高めた。班や全体での話し合いでは、カードに書いた理由を基に、なぜその行為を選んだのかを話し合うことで、おばあさんに対する親切な行為についての考えを深めていった。【主人公は・自分はカード】その際、手元のカードと黒板の構造をできるだけ同じように構成し、視覚的に捉えやすくなるように配慮した。

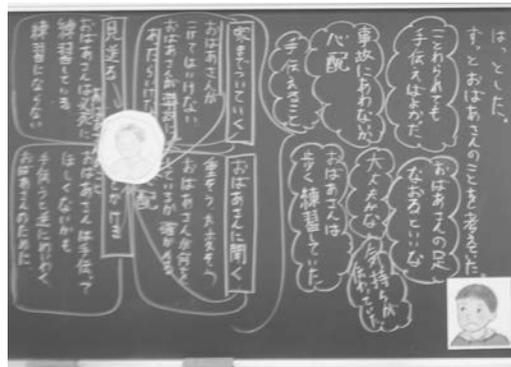


【主人公は・自分はカード】

##### （4）終末での働きかけ（課題解決後）

終末では、改めて「親切とはどういうことか」について考えを書かせた。この考えと事前にかいた考えを比べることで、自分の考えのよさや深まりに気付けるようにした。【今の自分・これからの自分】その際、友達の考えを参考にしながら自分の考えをつくったり、よいと思った考えを書き加えたりするように促した。そして、友達の考えを取り入れた場合には「友+」と記入して、友達の考えによって「親切」について考えが深まったことを意識できるようにした。【まとめの交流】





班の中での交流の後、全体での発表では、板書をワークシートと同じ構造にして関連付け、どの理由もおばあさんのことを考えたものになっていることを捉えていった。

**終末**  
〈学習活動4〉  
親切についての自分の考えを書き、本時を振り返る。

「親切にするとはどういうことでしょうか」と問いかけると、子供たちは本時を振り返りながら、道徳ノートに自分の考えを記述していった。そして、本時の初めにもっていた親切についての考えと比べながら考えを深めた。【今の自分・これからの自分】

**メタ認知を働かせている様相**

日常の観察から、メタ認知を働かせることが得意だと考えられたC2は、本時のまとめとして「親切とは、相手のことを思って相手がうれしくなったり笑顔になったりすること」と記述した。その後、班で話し合い、「友+」を書き加え、「自分もうれしくなる」という友達の考えを取り入れることができた。また、先のC1は、振り返りに「親切は相手も自分もうれしくなることで、親切をしないと自分がもやもやするから、できるように僕もがんばる」と、これからの自分の生き方について考えを深められた。

その後、相手の気持ちを考え見守ることも親切であることを確認し、似たような経験を想起させ、自分のよさに気付かせたり、取り組みたいという思いを高めたりした。

**6 考察 (○：成果, ●：課題)**

子供たちは、これまでもっていた「相手のことを考えて励ましたり助けたりする」という親切についての考えを基に、教材文と同じ状況において自分の行動を選択し、その理由を考えて伝えたり、友達の考えをうなずきながらよく聞いたり、親切な行為についての自分の考えを深める姿が見られた。

○ 事前のアンケートにより、学級の子供たちが親切についてどのような考えをもっているのかを把握し、それを授業の導入に生かすことができた。

さらに、授業前後を比較し、子供の考えの深まりを見ることができた。

○ ワークシートと板書の構造を同じにすることで、全体での対話の際に、自分の考えの理由と他の考えの理由を比較しやすくなった。

○ 選択した行動について挙手を促すことで、教室内に多様な考えがあることが視覚化され、理由を聞いてみたいという意欲が高まり、主体的な対話につながった。



【挙手によって多様な考えの存在を視覚化】

● 教材の内容を理解するまでに時間がかかり、主人公の立場であればどのような行動を選択するかという意識に向かいにくかった。自分事として考えられる働きかけが必要である。